

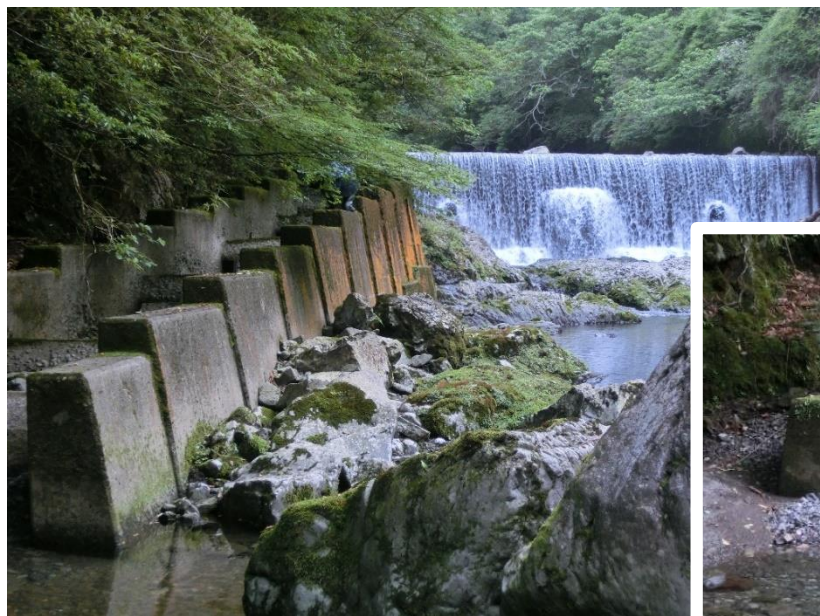
川の保全と地域活性化について



I. 『ウォーターズ・リバイタルPJ』 の目的

- ・次世代の若者たちに、貴重な日本の清流を保全し受け継いでいきたい。
- ・民間企業の協賛による、川を中心とした地域活性化推進モデルを確立させたい。

CSV(共通価値の創造)による事業益と公益の両立 $\geq$ CSR(公益的な経営規範)



当日、集まってくれたのは地元の青年会とサーファーたちだった。

Ⅱ．広く皆様にお伝えしたいこと。

それは、今、日本各地の清流が“魚類の生態系”において危うい状況になっていること、日本には「通し回遊魚」が数多く生息していること。

ポイント

- ✓魚が海と川を自由に行き来できることの大切さ。
- ✓バランスの崩れた川を復元し、内水面（淡水）の水産資源が豊かになることは、その地域の経済効果を高め人々に素晴らしい恩恵をもたらすこと。

※川の保全活動は、2014年6月成立した内水面漁業振興に関する法律の理念に沿って活動します。



Ⅲ. 日本の川の現状

川は、言うまでもなく我々の生活に密着したものであり、豊かな生物多様性を育む。
どこの町も、その中心に川がある。

川は本来、蛇行して流れて、海に注ぐ。
それは標高や地形などによる必然により形づくられる。



一本の川でも区間により管理者が分かれている。
国や県、市町村自治体・・・横断構造物の所有者はまた別。
川の流れ全体を把握している役所はあるのか？
行政だけでの解決や対策は難しい。

至る所で川のバランスが崩れていても、
その実態をトータルで把握している川マスターがいない。
これは深刻な問題です。



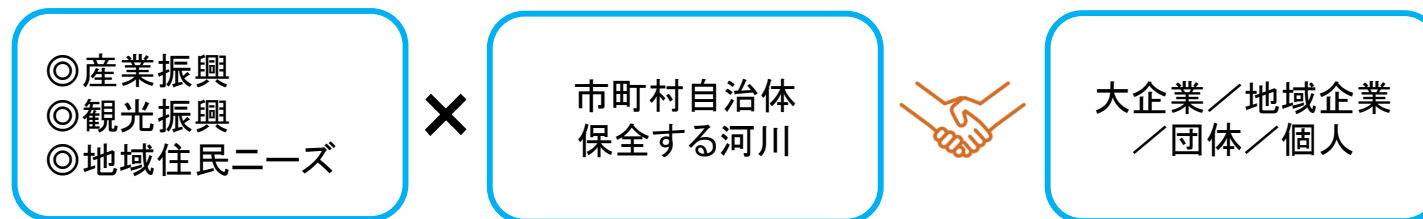
IV. CSV(共通価値の創造)による事業益と公益の両立

企業の実組みとしては、環境保全活動やそれらの活動への寄付などのCSRがあるが、営利企業では本業とのシナジーを捉えきれないケースが少なくない。

企業活動にとって有効なのは、CSRを経営規範としながら、事業益につながるCSV(共通価値の創造)を構想すること。
社会のニーズに取り組んで社会的価値を生むことが新市場創造につながる。

WRPの考える「共通価値の創造」について、以下の視点で考えてみたい。

- ✓環境視点のCSR活動にはソーシャルビジネスを誕生させる潜在能力があること。
- ✓「清流の保全と地域の活性化」を推進する過程で新たに誕生するビジネスは？
- ✓地域ニーズと民間企業とのビジネスマッチングの実現に向けて。



V. 事業益と公益マッチングの方向性

[公共事業・インフラ関連]

- ・植林事業「森のリサイクル」
- ・堰堤の修復活動 耕作遊休地の活用
- ・高度医療施設の建設(サテライト)
- ・高齢者向け施設
- ・公共施設への食材提供
- ・レジャーインフラ（宿泊施設・ペット・釣り・アウトドア）

[新商品開発]

- ・地域特性とマッチした商品開発／地元特産品とのコラボ
- ・旅行ツアー(エコツーリズム)

[新事業・販路開拓]

- ・良質のジビエ肉(イノシシ・シカ)の販売計画
- ・アユ、その他の内水面水産品の販売体制の確立(漁協との連携)

[地域住民ニーズ]

- ・図書館の設立(住民の書籍持寄りによる)
- ・“ハンバーガーやフライドチキンが食べたい！”を叶える(例)

[その他]

- ・地元の川を中心とした流域(地域)リバーガイドの養成(川検定 p.8)
- ・日本で最も美しい村連合との連携
- ・ポイントカード機能付き地域支援カードの発行
- ・クラウドファンディング
- ・鉄道などの地元インフラのサポート(鉄道ファン向け)

協賛候補 業種

- ◎ICT事業 : 医療 介護・福祉 教育 ニュービジネス 他
- ◎公共事業 : 林業 建設・土木 エコロジー 製紙 花卉
- ◎交通 : 鉄道 航空 バス 船舶
- ◎観光 : 旅行会社(エコツーリズム)
- ◎レジャー : 釣り アウトドア スポーツ用品
- ◎社会貢献 : エネルギー 電機 金融 保険 運送 食品・飲料
精密 自動車(エコカー) マスコミ 他
- ◎基盤 : 製薬 創薬 バイオ

「〇〇川」の〇〇〇を応援しよう。



協賛企業 各社

協賛企業様とのCSVの検討

VI. WRPの主な活動について

テーマ：「日本の清流」の紹介と保全協力、CSVの開発



カワリバ
www.kawariva.com

後援  産経新聞

連載企画 講談社
KODANSHA
おとなの週末

- A) ○○川の河口から源流までの流域フォト紀行 海～河口～中流～上流～源流
・水質 ・魚類の生態系(汽水域から溪流まで) ・釣り(海～溪流) ・川遊び ・森林 ・動植物 ・昆虫
- B) 川沿いの地域の紹介 地誌やその地に生きるユニークな人々にもフォーカスします。
・食材 ・地酒 ・温泉 ・名所旧跡 ・郷土料理 ・子供たち ・祭事 ・催事 ・特産品
- C) 流域における保全活動の告知と活動報告



川の保全活動は、2014年6月成立した内水面漁業振興に関する法律の理念に沿って活動します。

(森林の整備及び保全)

第十七条 国及び地方公共団体は、森林の有する水源の涵(かん)養の機能の発揮により良質な水の安定供給を確保する観点から、内水面水産資源の生育環境の保全及び改善に資するよう、森林の整備及び保全に努めるものとする。

(内水面水産資源の生育に資する施設の整備)

第十八条 国及び地方公共団体は、内水面水産資源の生育に資するため、魚道の整備及びその適切な維持管理、産卵場の造成その他必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

VII. 事業益と公益マッチング、に向けての展開案

◆「川検定」事業について

リージョナル・リバーマスターの育成 REGIONAL RIVER MASTERS (RRV)

町づくりの担い手の育成、地域の活性化と観光振興に貢献する。

地域外の受験者にとって魅力ある内容を検討する。

事業益と公益のマッチングにつながるニュービジネス誕生に向けた期待値。



- ✓ 当検定は、一次(総合)と二次(特定地域)の出題で構成する。
- ✓ 生物多様性を将来世代に引き継いでいくための基礎となる知識と知恵の提供。
- ✓ 大切な日本の川(地域)を保全し受け継いでいくためには、「地域特性を考慮」した「人の手による保全」が不可欠となる。
- ✓ “地域の自然特性”を正しく楽しく伝える事で、地域外の人々との交流を促進し、地域の活性化と観光振興に貢献する。

検討事項:	運営費用(受験料収入／ガイドの有料化 など)	／	リバースポーツの開発(ラフティング など)
	「山の水族館」的なコンテンツ開発(アユの水族館)	／	助成金(国・県)の獲得
	河川の氾濫リスク等への対処		

◆川検定の概要案

対象者は？

- ✓市町村自治体の関係者や地域住民、及び全国の生物多様性や自然環境・河川に関心のある層
- ✓生物多様性や環境保全を推進している有識者

協賛企業候補は？

- ✓JR東日本(J企) 他 JRグループ(北海道・東海・西日本・九州・四国)
- ✓出版社(講談社・小学館 他)
- ✓CSRを経営規範としながら事業益につながるCSVを構想する企業

《運営体制》

- *主催 : 産経新聞社
- *運営 : (株)産経広告社
- *協力 : (株)サイバーバンク
- *監修 : NPO法人 

《受験方法》

- ・ネット方式
- ・検定料金
- ・決済方法
- ・合格証 認定証
- ※検討中

《告知》

- ・フジサンケイネットワーク
- ・産経新聞
- ・産経広告社 学校掲示板
- ➡公立・私立小・中学校4700校 他

一次(総合)

- ①地理と気候、地質・水質
- ②森林と植物
- ③魚類の生態系
- ④鳥獣や昆虫類の生態系
- ⑤護岸や横断構造物
- ⑥河口と海

二次(特定地域)

〇〇川流域からの出題
※〇〇町リージョナル・リバー
マスター(略称:RRM)の取得

+



- ★農水省や環境省などの認定の公的資格
- ★〇〇町公認のRRMとして登録される。
- ★本人の希望で、公認のエリアガイドとして活動できる。
《エリアガイドの報酬》
 - ・地域住民➡地域振興券〇千円+昼食代
 - ・地域外➡町営施設一泊宿泊券+入漁券(一日券)